AAAP 2026 国際学会参加報告

Jeanne ARSELIN（岐阜大学大学院連合農学研究科）

2026 年 10 月 28 日から 31 日にかけて、ベトナムのハノイにある National Convention Center で開催された第21回Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress (AAAP 2026) に参加しました。本大会は、Animal Husbandry Association of Vietnam (AHAV) が主催しました。まず、今回の国際学会への参加にあたり、助成をいただいた動物の行動と管理学会の皆様に心より感謝申し上げます。

本大会には、さまざまな国から多様な分野の研究者が集まり、主に牛、豚、鶏を対象とした動物栄養、繁殖、遺伝、健康、アニマルウェルフェア、飼養管理など、幅広い分野の研究成果が発表されました。会場は新しく広々としており、快適な環境で学会に参加することができました。また、スポンサー企業の展示ブースでは、乳製品や食肉製品などの現地の商品が紹介されるとともに、新たな連携の機会も模索されており、活発な交流の場となっていました。開会式では、ベトナムの伝統音楽の演奏やサンドアートのパフォーマンスも披露され、とても印象に残りました。

私は「Effects of introducing strawberry olfactory enrichment near the feed on behaviour and stress in dairy cattle」という題目で、乳牛の飼槽付近にイチゴの香りを導入した際の行動やストレスへの影響について口頭発表を行いました。発表は予定どおりに進み、さまざまな国や専門分野の研究者から質問やコメントをいただくことができました。特に、研究の独創性について好意的なコメントをいただきました。また、匂いが動物の行動に影響を及ぼす生理学的メカニズムについても質問がありましたが、この点についてはまだ十分に解明されていません。さらに、異なる種類の匂い、特に動物にとって生物学的に意味のある匂いを使用した場合の効果についても議論があり、今後の研究で検討したい興味深い課題だと感じました。

学会期間中は、自分の専門分野である動物行動やアニマルウェルフェアに加え、栄養学や獣医学など、さまざまな分野の発表を聴講し、普段の専門分野を超えて知識を深めることができました。特に印象に残ったのは、茨城大学のカブキ・ハルヤ氏による「Changes in behavior and physiological responses following introduction of gestating gilts into individual stalls」というポスター発表で、妊娠した若い雌豚を個別ストールに導入した際の行動や生理的反応に関する研究でした。また、口頭発表では、Peter McGilchrist 氏による「Impact of sale method on the carcass attributes and meat quality of beef and lamb」（牛肉・羊肉の販売方法が枝肉特性や肉質に及ぼす影響）、東京大学の古谷哲也氏による「Pathogenicity and Therapeutic Strategies for Feline Morbillivirus」（猫モルビリウイルスの病原性と治療戦略）、Cathy M. Dwyer 氏による「Relationships between good animal welfare, animal health and productivity」（アニマルウェルフェアと動物の健康・生産性との関係）が興味深かったです。

学会最終日には、AAAP 2026 が企画した観光ツアーに参加しました。ニンビン省のチャンアン景観複合体では、ボートに乗って美しい山々や自然の洞窟を巡り、ベトナムの豊かな自然を楽しみました。また、バイディン寺院を中心とする宗教・文化複合施設も訪れました。滞在中は現地の料理も楽しみ、特にベトナムコーヒーや、若いもち米で作った緑色の生地で甘い緑豆餡を包んだ伝統菓子「バインコム」が気に入りました。

今回の学会参加は、科学的な知見を広げるとともに、日本国内外の研究者とのネットワークを築き、新たな文化やアニマルウェルフェアに対する多様な考え方に触れる貴重な経験となりました。最後に、このような機会を与えてくださった動物の行動と管理学会の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。



